

精神看護学実習

1. 目的

精神に障害をもつ人とその家族を理解し、対象に応じた看護ができる基礎的能力と、人間を尊重する態度を養う。

2. 目標

- 1) 精神の疾患や障害が患者や家族の日常生活にどのような影響を及ぼしているかが理解できる。
- 2) 患者の人権保護の重要性を理解し、尊重する態度をとることができる。
- 3) 患者のセルフケア能力に応じた日常生活行動の援助ができる。
- 4) 患者 - 看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関わりができる。
- 5) 地域で活動する場を体験し、保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護職の役割が理解できる。
- 6) 精神看護に向けて、主体的に学ぶ取り組みができる。

3. 実習構成

精神看護学実習 2 単位 (90 時間)	・時間数(単位)	実習施設
	12 時間	オリエンテーション 学内実習
	14 時間	地域活動支援センター
	64 時間	江田記念病院 丘の上病院 北小田原病院 曽我病院 西八王子病院 日野病院

4. 患者選定条件

精神疾患を持つ患者

5. 実習目標に関する学習内容

目標 1 精神の疾患や障害が患者や家族の日常生活にどのような影響を及ぼしているかが理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 精神の健康問題が患者・家族の日常生活に及ぼす影響を把握できる	1)精神機能と特徴的疾患の病態 (1)精神機能 ①思考②気分(感情)③意欲 ④知覚⑤意識⑥知能⑦記憶 (2)自我の構造と防衛機制 ①イド(エス)②自我③超自我 ④防衛機制 (2)統合失調症 ①症状分類②病型③成因 (3)気分障害 ①分類②主要症状 ③経過と予後④成因 (4)神経症性障害 ①分類②症状と特性	・事前学習（手書きとする）、追加学習の活用。 ・受け持ち患者の病態関連図を作成する。 ・必要な情報を考えながら、適切な方法（観察・会話）を用いて収集する。

	<p>(5)パーソナリティ障害 ①分類②症状と特性</p> <p>(6)器質性精神障害 ①分類②症状と特性</p> <p>(7)薬物・アルコール依存 ①嗜癖②乱用③離脱 ④精神依存と身体依存 ⑤禁断症状⑥ブラックアウト ⑦渴望</p> <p>(8)広汎性発達障害 ①特性</p> <p>2)回復過程の段階 ①急性期②慢性期③回復期 統合失調症においては①前駆期 ②発症初期③臨界期④回復期・寛解期</p> <p>3)精神症状 ①思考障害(思考内容の障害・思考過程の障害) ②気分(感情)障害③意欲の障害 ④知覚の障害⑤意識の障害 ⑥知能の障害⑦記憶の障害</p> <p>4)治療 ①薬物療法②電気けいれん療法 ③精神療法④環境療法 ⑤社会療法</p> <p>5)治療内容の日常生活への影響 ①主に薬物療法の副作用</p> <p>6)成育歴、病前性格</p> <p>7)入院前と入院後の生活の変化</p> <p>8)対象者の病態、回復過程の段階、症状と生活への影響</p> <p>9)疾患や障害、入院生活(退院後の生活)に対する患者・家族の思い</p>	
<p>2. 患者の行動や言動をありのまま受け止め、その意味を表現できる。</p>	<p>1)患者の行動や言動 2)非言語的反応と言語の関連性 3)患者の感情表現 4)行動や言動内容と成育歴・過去の体験との関連性 5)患者の言動や行動に対する自己の受け止め方やその理由</p>	<p>・患者の言動や行動をすぐ問題視せず、言動・行動の意味を本人に確認しようとする姿勢で接する。</p> <p>・患者の言動・行動を思い込みで意味づけていないか、他者にも確認して考える。</p> <p>・患者の表情の変化などに注意して関わる。</p>

		・非言語的な反応を言語の意味と関連させて確認し、その意味について考える。
--	--	--------------------------------------

目標 2 患者の人権保護の重要性を理解し、尊重する態度をとることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 人権保護を考えた環境の在り方について自分の言葉で表現できる。	1)権利擁護(アドボカシー) 2)患者にとっての閉鎖・開放病棟入院の意味(入院形態・入院病棟) 3)患者を取りまく人間関係(患者同士の関係、患者と医療者、患者と家族) 4)患者本人への告知内容、告知方法 5)通信や面会の実際 6)医療者のもつ鍵や施錠の意味 7)危険物の取扱い 8)行動制限の範囲と意味 9)精神障害者の人権を保障するための法律 ①憲法「基本的人権(第 11 条)」 「自由・権利の保持義務(第 12 条)」 「個人の尊厳、自由と幸福追求権(第 13 条)」 ②精神保健福祉法「入院形態における本人の同意の有無」 ③入院患者の行動制限の基準(厚生労働大臣が定める基準)	・事前学習の活用。 ・病棟オリエンテーション ・個人が持つ権利にはどのようなものがあり、精神障害者が一時的に制限されるのはなぜかを考える。 ・患者との関わりから、病態と治療内容について収集し、おかれている処遇とその必要性について考える。 また、人権擁護の配慮が病棟の環境や治療内容にどのように取り入れられているのかを積極的に知る。 ・1 週目 2 日目の安全管理カンファレンスにて患者の安全とその確保に向けた援助について確認し、精神看護における安全の考え方を意識しながら患者との関わりに役立てる。
2. 患者を尊重した態度をとることができる。	1)自己の精神疾患や精神障害者、精神病院に対する先入観や偏見がもたらす影響 2)関心をもった関わり方や関心の示し方	・実習開始初期、中期、終了時にそれぞれ精神病棟や精神障害者に対するイメージがどのように変化したかをグループメンバーと共有する(カンファレンス時など)。 ・患者の安心できる環境の一部として誠実に関わることを意識し、関わった後には教員・指導者と振り返る。 ・関わりの中で知ろうとする行動(患者のもとに自ら訪室して声をかける、患者の意思をたずねる、知るための手立てを指導者や教員に相談する)をとる。 ・患者のペースを知り、合わせながら関わる。

		・プロセスレコードによる振り返りを、その後の患者との関わりに活用する。
--	--	-------------------------------------

目標 3 患者のセルフケア能力に応じた日常生活行動への援助ができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 必要な情報を、適切な方法を用いて収集できる。	1)意図的な観察や会話をとおしての情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活状況について行動を共にしたり、かかわりを深めながら観察する。 ・教員、指導者、スタッフの関わり方も参考にする。 ・患者と相談するなど自己決定を尊重した目標や計画内容にする。 ・その患者の生活状況、生活習慣を踏まえたその人らしい行動レベルの計画にする。 ・カンファレンスを通して自己のとらえ方や視点にこだわり過ぎず、他人の視点を取り入れながら患者の理解、自己の理解を深めていく。
2. 患者の日常生活行動のセルフケア能力をアセスメントできる。	2)疾患や発達の特徴をふまえたセルフケアの査定	
3. 患者の全体像を把握し健康的な側面及び潜在的・顕在的な問題が述べられる。	3)エリクソンの漸成的成長発達を用いた心理・社会的機能の発達状況のアセスメント	
4. 患者と共に目標を設定し、個別的で具体的な計画が立案できる。	4)患者の健康的な側面・強みを考慮した目標設定・援助の実施	
5. 健康的な側面を助長しながら、日常生活の自立に向けての援助ができる。	5)目標に照らした振り返り	
6. 行った援助を振り返り、患者に与えた影響を述べられる。		

目標 4 患者 - 看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関わりができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 人間関係における自己の感情や行動の傾向に気づくことができる。	1)患者・看護師関係の発展過程（外口玉子による）	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との関わりやプロセスレコードの検討会を通じて、自己の関わり傾向について言語化する。 ・他者の意見をまずは受け入れ客観的に自己をみつめる。 ・否定的な感情や消極的な感情も言語化して教員、指導者、メンバーに伝えてみる。また、その感情はなぜ起こっているのかについて考える。 ・プロセスレコード検討会では参加者全員が安心して意見を述べ合うことの出来るようにする。そのためにも、思考や行動に対する否定や批判、安易な助言はしないこと。（検討会開催の注意事項など事前学習資料を参照する）
2. 自己の中に生じた思考や感情を言語化し表現できる。	(1)患者と出会い互いに知り合う段階	
3. 患者－看護師関係における自己の経験を振り返り精神を障害された人にとっての看護の意義を考えることができる。	(2)行動を共にし関係を深める段階	
	(3)関係を終結していく段階	
	2)プロセスレコードの記載と分析	
	3)患者・看護師関係の発展を促すための自己一致	
	4)受容・傾聴・共感的態度とその示し方	
	(1)ヘイズとラーソンの治療的コミュニケーション技法の内容	
	(2)視線・立つ位置と座る位置・声のトーンと速さ・時間の枠組み・質問の仕方	

	<p>5)治療的環境の一部としての看護師（看護学生）</p> <p>6)よりよい人間関係を築くための自己の変容</p>	<p>・最終カンファレンス テーマ 「精神実習で うれしかったこと、つらかったこと、悲しかったこと 感動したこと」</p> <p>上記テーマを通し患者との関わりにおける自己の感情の変化に視点を当てながら、自己がどのように成長したのか、なぜ自己変容が看護に意味を持つのかを考え、精神看護の意義について自分なりに結論付ける。</p>
--	---	--

目標 5 地域で活動する場を体験し、保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護職の役割が理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 利用している対象者の特徴を理解できる。	1)精神保健に関する社会資源や支援サービス	・事前学習を行い、実習中に十分に活用する。
2. 地域で活動する場の役割を、体験を通して述べるができる。	(1)所得保障に関するもの (2)医療費に関するもの (3)住まいや暮らしに関するもの (4)活動・仕事に関するもの (5)そのほか	・その日の学習目標を明確にし、指導担当者に伝える。 ・施設の概要についてオリエンテーションを受け、施設目的・通所メンバーの特徴・プログラムの目的と内容等を確認する。施設からの注意事項は厳守する。
3. 保健医療福祉チームメンバーとの連携と看護の役割を説明できる。	①手帳制度 ②精神保健福祉センター ③保健所と各市町村窓口 2)地域活動支援センターの機能・役割 3)障害者総合支援法における地域活動支援センターの位置づけ 4)精神障害者を取り囲む保健医療福祉チームの概要 5)地域における精神障害者の在り方	・メンバーとの関わりやプログラムへの参加をする。 ・実習終了時に施設の指導担当者との学びの振り返りを実施し、気づきを明らかにする。

目標 6 精神看護に向けて、主体的に学ぶ取り組みができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 看護学生や看護チームの一員として責任のある行動がとれる。	1)看護を展開するうえで必要な学習内容の活用	・カンファレンスは単なる情報伝達の場ではなく、体験を共有し、一緒に考え、話し合いを通して理解を深める場であることを意識して参加する。
2. 他者の助言を受け入れられる。	2)効果的なカンファレンス	また、正解を求めるものではないことに注意する。
3. グループにおける自己の役割を意識した行動・言動が示せる。	①集団凝集性(ビオンによる) ②リーダー的役割 ③メンバー的役割	

4. 今後の自己の課題について述べられる。	3)場や状況に応じた報告・連絡・相談 4)看護職者としての守秘義務、患者のプライバシーの保護 5)よりよい人間関係を築くための自己の変容 6)看護職者として成長していくための自己課題	・実習1日目にリフレクションシートを用いて本実習の自己課題と目標を明確にし、目的意識を持ち、学習意欲を高める。 ・実習最終日に指導者・教員とともに振り返りを行い自己課題を明らかにする。 ・患者との体験を通し、看護職者としてよりよく成長していくため何が自分に必要なのかを考え、看護観へつなげる。
-----------------------	--	--

6. 実習の進め方

1) 地域活動支援センター

曜日	月	火	水	木	金
時間	9:00～16:45	9:00～16:45			9:00
予定	施設オリエンテーション ・施設の概要と役割を学習する。 ・サービス提供をする医療福祉従事者の役割および連携を考える。 ・精神保健に関する社会資源の活用 その他のサービスを学ぶ。				記録提出
CF	気づきと学び	気づきと学び			
記録	地域活動支援センター記録用紙				実習記録すべて

※月・火に老年実習が組まれる場合は水・木が実習になる。

2) 病院実習

1 週目

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15~17:00	8:15~17:00	8:15~17:00	8:15~17:00	学内(4.5 時間)
予定	病棟オリエンテーション ・受持ち対象の選定 ・患者紹介・情報収集 ・コミュニケーション	情報整理と分類、分析解釈 ・コミュニケーション ・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施 ・意図的に情報収集及び分析解釈を実施	情報整理と分類、分析解釈 ・コミュニケーション ・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施 ・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施	情報整理と分類、分析解釈 ・コミュニケーション ・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施 ・全体像の発表	関連図およびアセスメントの整理
CF	・本実習における自己の課題と目標 ・初日の感想およびイメージの変化 ・受け持ち患者情報共有	対象の安全管理について	プロセスレコード検討会	実習中盤での自己の精神科に対するイメージの変化	なし
記録	リフレクションシート	様式 1-1、1-2、2、3	様式 1-2、2、プロセスレコード	様式 1-2、2、3	

2 週目

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15~17:00	8:15~17:00	8:15~17:00	8:15~17:00	学内(5.5 時間)
予定	全体像 問題点抽出	計画の実施・評価 看護計画に沿って援助を実施する。 ・対象の反応を捉えながら援助を実施し、実施・評価を行う。		評価面談	地域活動支援センターに関する事前学習
CF	全体像の発表 アセスメント発表	看護計画発表	プロセスレコード検討会 自己の精神科や精神患者に対するイメージの変化	実習でうれしかったこと、つらかったこと、悲しかったこと、感動したこと ・精神看護の意義	
記録	様式 1-2、2、3	様式 3,4,5	様式 4、5、6、プロセスレコード	様式 4、5、6	※病棟実習の記録提出は 2 週目金曜日 9:00 とする。

※休日を含む場合は金曜日が実習日となる。

7. 実習評価表 実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

実習グループ G 学籍番号 _____ 学生氏名 _____

	評価項目	自己評価	教員・指導者 評価
目標 1	1.精神の健康問題が患者・家族の日常生活に及ぼす影響を把握できる。		
	2.患者の行動や言動をありのまま受け止め、その意味を表現できる。		
目標 2	1.人権保護を考えた環境の在り方について自分の言葉で表現できる。		
	2.患者を尊重した態度をとることができる。		
目標 3	1.必要な情報を、適切な方法を用いて収集できる。		
	2.患者の日常生活行動のセルフケア能力をアセスメントできる。		
	3.患者の全体像を把握し健康的な側面及び潜在的・顕在的な問題が述べられる。		
	4.患者と目標を設定し、個別的で具体的な計画が立案できる。		
	5.健康的な側面を助長しながら、日常生活の自立に向けての援助ができる。		
	6.行った援助を振り返り、患者に与えた影響を述べられる。		
目標 4	1.人間関係における自己の感情や行動の傾向に気づくことができる。		
	2.自己の中に生じた思考や感情を言語化し表現できる。		
	3.患者—看護師関係における自己の経験を振り返り精神を障害された人にとっての看護の意義を考えることができる。		
目標 5	1.利用している対象者の特徴を理解できる。		
	2.地域で活動する場の役割を、体験を通して述べることができる。		
	3.保健医療福祉チームメンバーとの連携と看護の役割を説明できる。		
目標 6	1.看護学生や看護チームの一員として責任のある行動がとれる。		
	2.他者の助言を受け入れられる。		
	3.グループにおける自己の役割を意識した行動・言動が示せる。		
	4.今後の自己の課題について述べられる。		
学生コメント		指導者コメント	
		サイン	
		教員コメント	
自己評価合計点 サイン		サイン	
欠席合計時間 時間 分		総合評価点 サイン	

評価基準 5：達成 3：一部達成 1：未達成